令和５年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報 告 書

令和５年６月

東 京 都 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校等の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和５年２月２１日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約４０，０００人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校等においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

区市町村教育委員会、中学校等及び高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和５年６月

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　令和５年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針 …… 1

Ⅱ　調査目的 …… 1

Ⅲ　調査内容 …… 1

Ⅳ　調査結果

1　概要 …… 1

(1)　教科別受検者数

(2)　教科別実施校数

(3)　教科別平均点

2　各教科 …… 2

(1)　国語 …… 2

(2)　数学 …… 4

(3)　英語 …… 6

(4)　社会 …… 8

(5)　理科 …… １０

Ⅰ　令和５年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

１　中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし，出題の範囲は，中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。

２　出題の内容は，各教科とも，中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに，一部の領域に偏ることのないようにする。

３　出題に当たっては，基礎的・基本的な知識及び技能の定着や，思考力，判断力，表現力などをみるとともに，体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

Ⅱ　調査目的

１　上記Ⅰの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について，その学力の実態を把握する。

２　各教科・各問の正答及び誤答を分析し，その結果を公表することで，中学校，義務教育学校及び高等学校等における教科指導の改善に資する。

Ⅲ　調査内容

令和５年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和５年２月２１日実施）において，全日制高等学校を志願し，共通問題により学力検査を受検した者について，次の調査を実施した。

１　教科別の平均点及び得点分布

全数調査により，教科別得点状況等を調査した。

２　各教科の小問・大問正答率

抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては，信頼度９５％を担保するに十分な人数を抽出した。

小問正答率は，小問において，抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は，大問において，各小問で抽出した受検者の総数に対する，各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

Ⅳ　調査結果

１　概要

⑴　教科別受検者数

国　　語	数　　学	英　　語	社　　会	理　　科
３４，８１７人	３４，８１８人	３４，５７８人	３８，６２３人	３８，６２３人

⑵　教科別実施校数

国　　語	数　　学	英　　語	社　　会	理　　科
１５１校	１５１校	１５０校	１６０校	１６０校

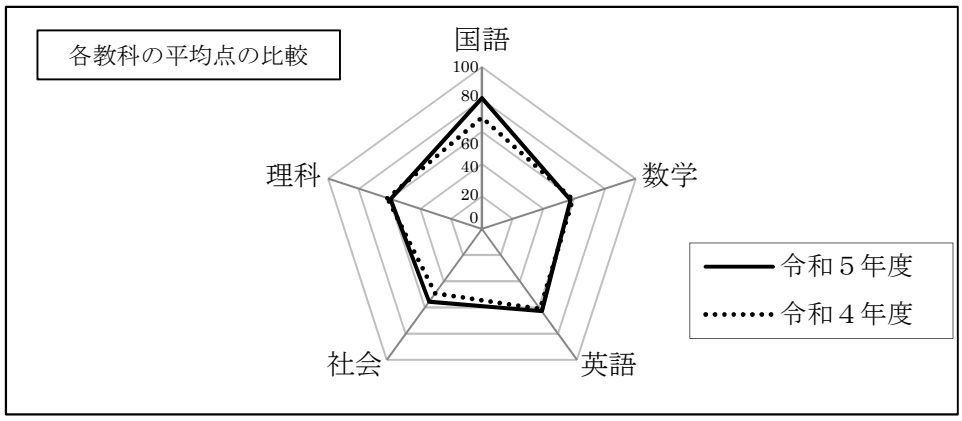
⑶　教科別平均点

国　　語	数　　学	英　　語	社　　会	理　　科
８０．８点 （６８．８点）	５７．６点 （５９．０点）	６２．８点 （６１．１点）	５５．６点 （４９．２点）	５９．４点 （６１．４点）

（注１）　各教科の満点は１００点である。

（注２）　記述式の問題や作図の問題では，各学校で部分点を与えるという採点上の配慮を行っている。

（注３）　教科別平均点欄の（　　）内の数字は，令和４年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



２　各教科

(1)　国語

ア　出題の方針

国語の特質に関する理解や伝え合う力，思考力，想像力など国語で正確に理解し適切に表現する能力をみる。

イ　各問のねらい

1　漢字を正しく読む能力をみる。

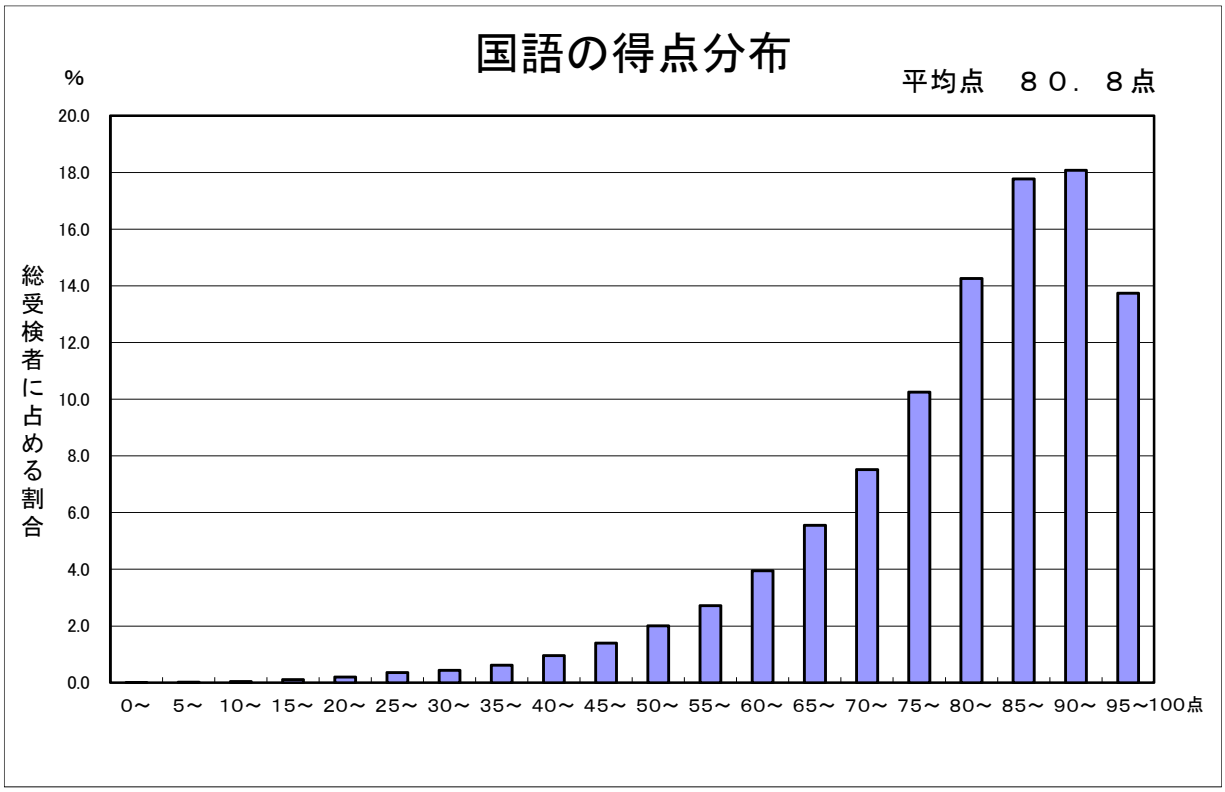
2　漢字を正しく書く能力をみる。

3　文学的な文章を読み，叙述や描写などに即して，語句や文の意味，登場人物の様子，心情などを正しく理解する能力をみる。

4　説明的な文章を読み，叙述や文脈などに即して，語句や文の意味，文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに，考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら，相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。

5　対談を含め，古典を引用した複数の資料を読み，発言の意図や役割を理解することを通して伝え合う力をみるとともに，言葉の特徴や使い方，情報の扱い方，言語文化に関する知識をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は８０．８点となり，昨年度より１２．０点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の７０点～７４点から９０点～９４点に移り，８５点以上の受検者の割合が１２．８％から４９．６％に増加した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　漢字を正しく読む能力をみる問題とした。

2　漢字を正しく書く能力をみる問題とした。

3　故郷の町を舞台として，主人公と町に住む人々との交流を描いた小説を読み，表現の特徴や登場人物の様子，心情などを読み取る問題とした。

4　ウェルビーイングと情報との関連について論じた文章を読み，文脈に即して内容を正しく読み取る問題，文脈から段落の役割を捉える問題，筆者の主張を正確に読み取る問題，本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に論理的に伝える力をみる問題とした。

5　「枕草子」と「源氏物語」それぞれの作者の自然描写に関する複数の文章や，原文とその現代語訳の一部を読み，要旨を的確に捉える問題，対談における発言の役割を捉える問題，複数の文章から情報を整理する問題，語句の働きや意味を答える問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	99.7%	75.3%
	(2)	2	48.7%	
	(3)	2	99.4%	
	(4)	2	77.7%	
	(5)	2	50.8%	
2	(1)	2	91.6%	83.3%
	(2)	2	84.2%	
	(3)	2	78.5%	
	(4)	2	66.6%	
	(5)	2	95.6%	
3	※〔問1〕	5	88.9%	89.7%
	※〔問2〕	5	94.4%	
	※〔問3〕	5	90.9%	
	※〔問4〕	5	88.3%	
	※〔問5〕	5	85.9%	
4	※〔問1〕	5	81.9%	☆79.7%
	※〔問2〕	5	87.7%	
	※〔問3〕	5	75.5%	
	※〔問4〕	5	71.6%	
	〔問5〕	10	☆81.9%	
5	※〔問1〕	5	37.7%	64.3%
	※〔問2〕	5	66.4%	
	※〔問3〕	5	71.2%	
	※〔問4〕	5	79.1%	
	※〔問5〕	5	66.8%	

（注１）　☆は部分正答も含めた割合
（注２）　※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1　(2)「こはん」，「かせん」と表記する誤答が多かった。

2　(4)無回答が特に多く見られた。学習が定着していない語彙であったためと考えられる。

3　〔問5〕では，「エ」という誤答が多かった。踊りだしてしまいそうになるのを「こらえきれそうにない」と思った主人公の心情について，言動や描写を基に丁寧に読み取る力が十分ではなかったためと考えられる。

4　〔問4〕では，「ア」という誤答が多かった。これは，アップロードされた私たちの心はもはや人間の心ではなくなると筆者が述べた理由について，叙述や文脈から的確に捉えることができなかったためと考えられる。また，〔問5〕では，「これからの情報社会をよりよく生きる」というテーマに対する自分の意見を述べているものの，体験や見聞との結び付きが見られない解答が多かった。これは，根拠を明確にしながら書く力が十分ではなかったためと考えられる。

5　〔問1〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，形容動詞「普通だ」の活用語尾「に」と，体言に接続する助詞「に」との単語の類別についての理解が十分ではなかったためと考えられる。また，〔問2〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，対談の内容の理解に加え，「源氏物語」の自然描写について，この後の発言と関連付けて理解することができなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 2の正答率から，漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えられるが，1(2)(5)及び2(4)から語彙の量と質が十分ではないと考えられる。漢字の構成要素や語句の意味を確認させるとともに，用例を作成させることで漢字の知識及び技能を着実に習得する学習や，多様な文章や表現に触れ，未知の語彙を話や文章の中で使う学習が必要である。

(ｲ) 3の〔問5〕の，他の小問と比較した正答率の低さから，登場人物の心情や，その心情を生む要因について，描写を基に捉える力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において，会話内容，場面の展開，行動描写・情景描写等に着目して，登場人物の心情や変容について考える学習の充実が必要である。

(ｳ) 4の〔問4〕の，他の小問と比較した正答率の低さから，文脈に即して，筆者の意図や叙述を捉える力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において，筆者の意図を捉えるだけではなく，文章中のキーワードがどのように説明されているか，正確に整理する学習が必要である。

(ｴ) 5の〔問1〕の，正答率の低さから，単語の類別について理解する力が十分ではないと考えられる。伝えたい微妙なニュアンスを，助詞を使うことによって相手によりよく伝えられることに気付く学習や，助詞が文脈の中でどのような働きをしているかに注意して，話や文章の中で使う学習が必要である。

(2)　数学

ア　出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみるとともに，これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力，判断力，表現力等をみる。

イ　各問のねらい

1　数と式，図形，データの活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる。

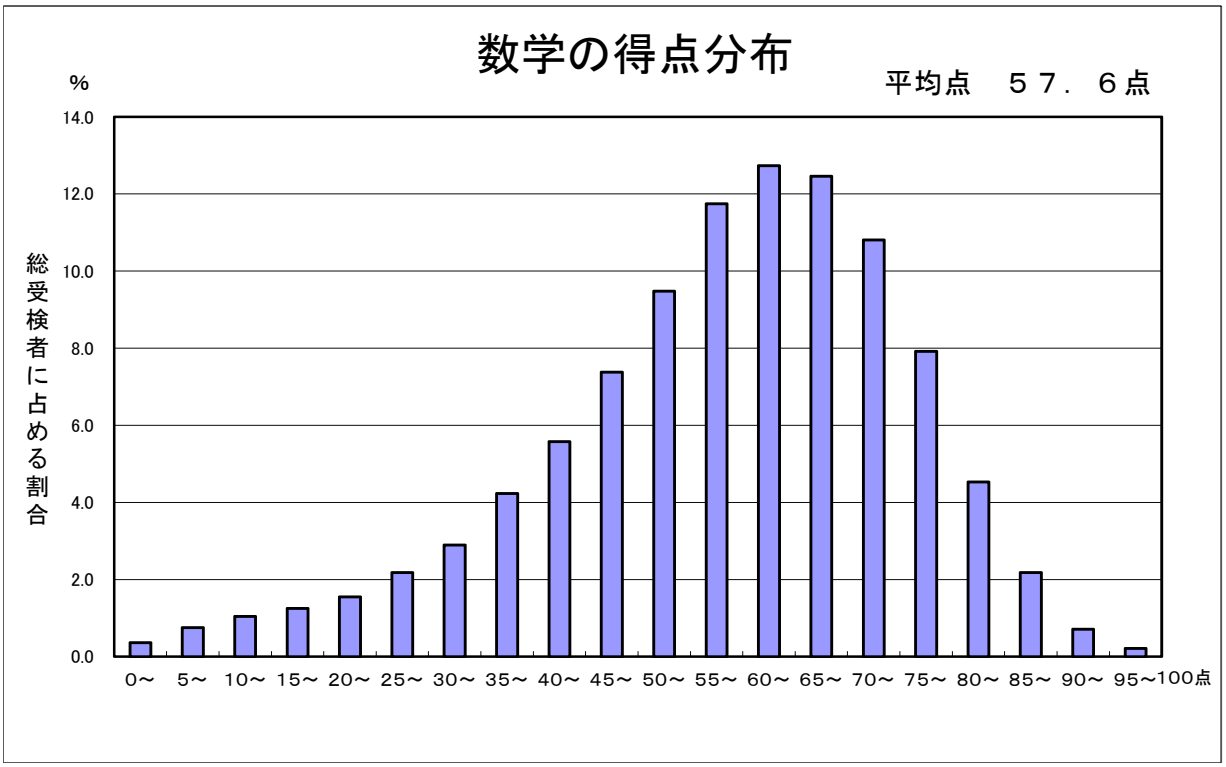
2　数学的活動の場面をもとに，数学的な見方・考え方を働かせ，事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。

3　関数についての知識及び技能をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

4　平面図形についての知識及び技能をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。

5　空間図形についての知識及び技能をみるとともに，図形の性質や関係を直観的に捉え，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は５７．６点となり，昨年度より１．４点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の７５点～７９点から６０点～６４点に移り，８０点以上の受検者の割合が１６．７％から７．６％に減少した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識及び技能をみる問題とした。

2　図形を題材として，線分の長さや面積の関係について，数理的に考察し文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。

3　一次関数を題材として，座標を求める問題，２点を通る直線の式を求める問題，座標平面上の三角形の面積について考察し処理する能力をみる問題とした。

4　台形を題材として，文字を用いた式で角の大きさを表す問題，三角形の相似を証明する問題，相似な三角形を見いだすなどして２つの三角形の面積の比を求める問題とした。

5　正四面体を題材として，空間図形における線分と面の位置関係に着目し，２つの線分の長さを合計した値が最も小さくなる場合を考察し処理する能力をみる問題，正四面体の中にできる立体の体積を求める問題とした。

大問	小問		配点	小問正答率	大問正答率
1	〔問 1〕		5	95.1%	☆76.5%
	〔問 2〕		5	77.3%	
	〔問 3〕		5	73.6%	
	〔問 4〕		5	90.4%	
	〔問 5〕		5	87.6%	
	〔問 6〕		5	72.2%	
	〔問 7〕		5	71.2%	
	〔問 8〕		5	66.1%	
	〔問 9〕		6	☆54.7%	
2	※〔問 1〕		5	31.7%	☆26.8%
	〔問 2〕		7	☆21.9%	
3	※〔問 1〕		5	73.7%	42.1%
	※〔問 2〕		5	38.6%	
	〔問 3〕		5	13.8%	
4	※〔問 1〕		5	59.8%	☆40.9%
	〔問 2〕	①	7	☆61.4%	
		②	5	1.7%	
5	〔問 1〕		5	12.5%	7.8%
	〔問 2〕		5	3.2%	

（注１）☆は部分正答も含めた割合
（注２）※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1　〔問 8〕では，「50 度」という誤答が多かった。これは，求める角と等しい角を含む三角形を二等辺三角形と誤認したためと考えられる。

〔問 9〕では，解答用紙に掲載された直線 ℓ を線分とみなして垂直二等分線を作図する誤答が多かった。これは，点Ｏを通り直線 ℓ に垂直な直線が，解答用紙に掲載された直線 ℓ を線分とみなしその線分の垂直二等分線を作図することで求められると誤認したためと考えられる。

2　〔問 2〕では，部分正答を含めて正答率が 21.9%，無答率は 55.3%であった。これは，おうぎ形の面積は文字を用いて立式できたが，おうぎ形の弧の長さを求める際に半径を正確に捉えて立式することができなかったためと考えられる。

3　〔問 3〕では，誤答率が 42.9%，無答率が 43.3%であった。これは，条件を満たす点の座標を，文字を用いた式で表し，その文字を用いて△ＢＰＱの面積と△ＡＰＢの面積を表し，処理することができなかったためと考えられる。

4　〔問 2〕②では，誤答率が 71.3%，無答率が 27.0%であった。これは，与えられた図から解答を導くために必要となる相似な図形を見いだすなどして，△ＤＲＳと△ＤＰＱ及び△ＢＰＱと△ＢＡＣに含まれる線分の比を考察して見通しを立てることや，処理することができなかったためと考えられる。

5　〔問 1〕では，誤答率が 70.8%，無答率が 16.8%であった。これは，点Ｍと点Ｐ，点Ｍと点Ｑを結んだ線分の長さを合計した値が最も小さくなる場合を捉えることができなかったためと考えられる。

〔問 2〕では，誤答率が 66.8%，無答率が 30.0%であった。これは，正四面体の中にできる立体を捉えることができず，高さ等を求めることができなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 1の正答率から，計算問題等の基礎的・基本的な事項についての知識及び技能についてはおおむね定着している。しかし，1〔問 8〕や4〔問 2〕②の正答率の低さから，図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり，それらを組み合わせて考察したりする力が十分ではない。条件を適切に読み取ることや，与えられた図形の中の合同な図形や相似な図形に着目して，既習事項に関連付けて考える場面を設けた指導を充実させる必要がある。

(ｲ) 2〔問 2〕及び4〔問 2〕①の正答率から，推論の過程を的確に表現する力が十分ではない。問題文から条件を読み取り立式する指導，推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導の充実が必要である。また，考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して，正確に，分かりやすく表現する能力を一層高める指導が必要である。

(ｳ) 5の正答率から，図形の性質や関係を直観的に捉え，空間内にある直線と平面の位置関係や，立体の中にできる平面等を正確に把握する力が十分ではない。実際に立体を作ることや，立体の見取図，展開図，投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取ることなどを通して，空間における図形の位置関係を捉えたり，空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3)　英語

ア　出題の方針

簡単な英語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解するとともに，自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ　各問のねらい

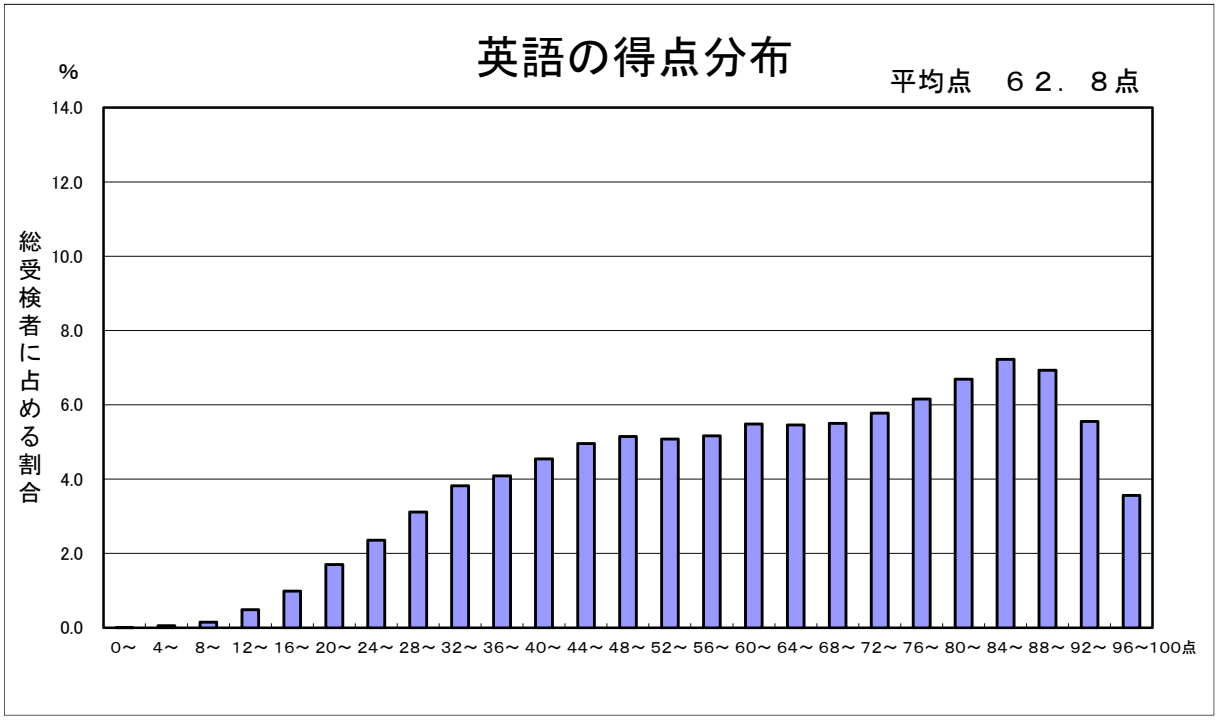
1　自然な口調で話される英語を聞いて，その具体的な内容や大切な部分を把握したり，聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。

2　英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに，必要な情報を得たり，自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。

3　まとまりのある対話文を読み，その流れや大切な部分を把握する能力をみる。

4　物語文を読み，そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は６２．８点となり，昨年度より１．７点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の８０点～８３点から８４点～８７点に移り，８０点以上の受検者の割合が２５．６％から３０．０％に増加した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　週末の出来事に関するやり取りや，外国人の先生が離任式で中学生に向けて行ったスピーチなどを聞き，具体的な内容や大切な部分を把握したり，聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

2　高校生と留学生が，東京都内のある地域を紹介したパンフレットや，施設別来訪者数を示したグラフを見ながら，夏休みのある土曜日の予定について話し合う場面を題材として，英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。

また，帰国した留学生からのＥメールに返信する場面を設定し，主題である「来日の際に楽しめる日本の伝統文化の体験」について，自分の考えやそれを取り上げた理由を英語で表現する能力をみる問題とした。

3　美術部員である高校生と留学生が，展覧会に向けた作品づくりについて話をする中で，努力を積み重ねていれば，自分を信じてゴールに向かって進むことができるということに気付くという内容の対話文を読み，対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

4　高校生の主人公が，自分の家にホームステイしている，来日したばかりの留学生を喜ばせようと努力するエピソードを通して，相手との認識の違いに悩みながらも，相互理解のために大切なことに気付くという内容の物語文を読み，本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

大問	小問		配点	小問正答率	大問正答率
1	※A	〈対話文1〉	4	90.1%	☆62.1%
		〈対話文2〉	4	56.0%	
		〈対話文3〉	4	59.6%	
	B	※〈Question 1〉	4	84.4%	
		〈Question 2〉	4	☆20.5%	
2	※1		4	29.3%	☆54.5%
	※2		4	61.9%	
	3	※(1)	4	69.8%	
		(2)	12	☆56.9%	
3	※〔問1〕		4	68.6%	65.0%
	※〔問2〕		4	83.8%	
	※〔問3〕		4	71.6%	
	※〔問4〕		4	42.0%	
	※〔問5〕		4	77.4%	
	※〔問6〕		4	63.0%	
	※〔問7〕		4	48.3%	
4	※〔問1〕		4	69.9%	49.7%
	〔問2〕		4	39.6%	
	※〔問3〕	(1)	4	58.8%	
		(2)	4	46.4%	
		(3)	4	47.6%	
	※〔問4〕	(1)	4	46.8%	
		(2)	4	38.7%	

（注１）　☆は部分正答も含めた割合
（注２）　※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1　Ｂの〈Question 2〉では，“She wants to visit other countries.”や“She keeps studying Japanese hard.”などとする誤答が多かった。これは，文構造への理解が十分でなかったことから，質問の意味を理解できず，解答すべき内容を英語で正しく書き表すことができなかったためと考えられる。

2　1 では，「イ」という誤答が多かった。これは，二人の対話から，訪問する地域の順番を適切に理解し，訪問する地域に関する項目を把握することができなかったためと考えられる。また，3(2)では，「来日の際に楽しめる日本の伝統文化の体験」について提案するという主題を正確に理解できなかったり，自分の考えを英語で正しく表現できなかったりした解答が見られた。

3　〔問 4〕では，「イ」という誤答が多かった。これは，下線部(4)が言及している部分を十分に理解していなかったり，複数の登場人物による対話の流れを正しく把握することができなかったりしたためと考えられる。

4　〔問 2〕では，「エ」の後に続く内容を「ア」と取り違える誤答が多かった。また，〔問 4〕(1)では，「ア」という誤答が多かった。これは，本文中の一部の表現のみに基づいて登場人物の心情等を判断するなど，物語全体を通じた登場人物の心情等の把握が十分でなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ)　1及び2の結果から，まとまりのある文章を聞いたり読んだりする際，コミュニケーションの目的や場面，状況などに応じて，必要な情報，概要，要点を捉える力を高める指導が必要である。また，複数の領域を統合した言語活動（聞いたり読んだりしたことについて，生徒が自分の考えや気持ちを話したり書いたりするなどの活動）を通して，既習の語彙や表現の活用を促し，その定着を図っていくことが必要である。

(ｲ)　3及び4の結果から，まとまりのある文章を読む際に，対話の流れや登場人物の考えを把握する力，本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する力を高める指導の充実が必要である。また，様々な文章に触れることを通して，幅広い表現の定着を図る指導の充実が必要である。

(4)　社会

ア　出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ　各問のねらい

1　地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。

2　世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。

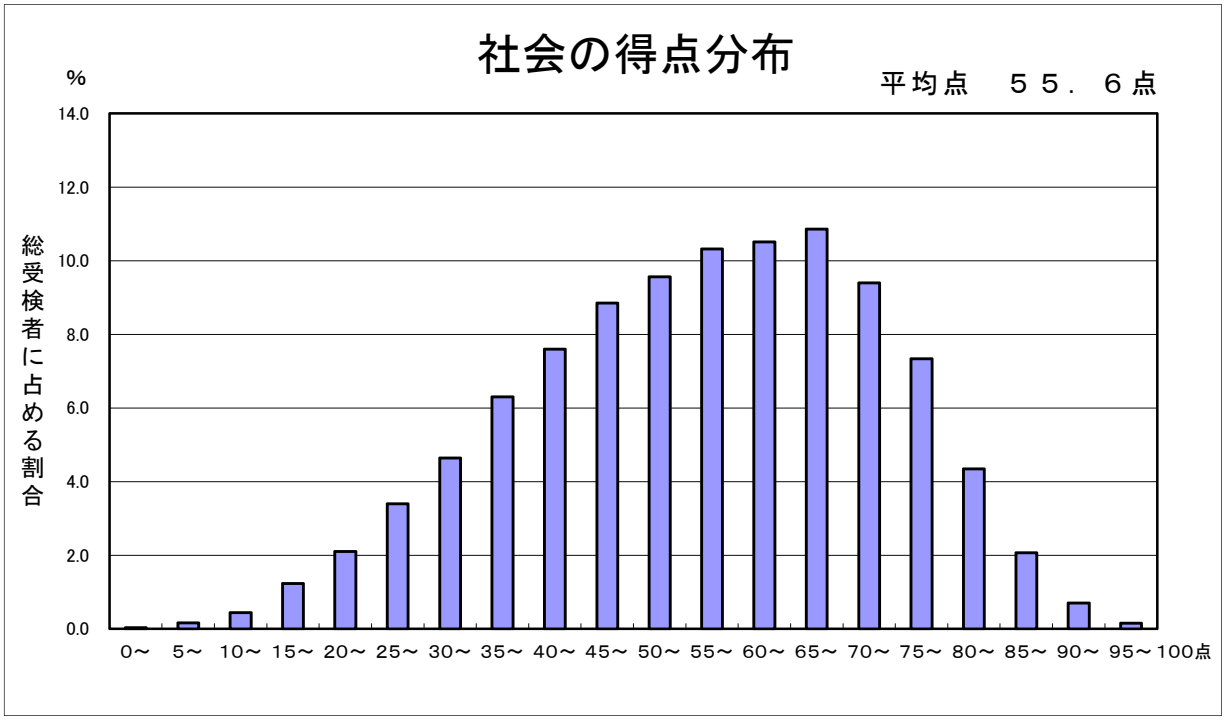
3　我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。

4　世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。

5　現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。

6　現代社会の諸問題について，地図や統計等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の３分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は５５．６点となり，昨年度より６．４点上昇した。

今年度は，分布のピークが昨年度の３５点～３９点から６５点～６９点に移ったが，８０点以上の受検者の割合が８．３％から７．３％に減少した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	5	69.1%	82.8%
	※〔問 2〕	5	91.7%	
	※〔問 3〕	5	87.6%	
2	※〔問 1〕	5	61.3%	59.0%
	※〔問 2〕	5	56.0%	
	※〔問 3〕	5	59.7%	
3	※〔問 1〕	5	72.6%	☆57.9%
	※〔問 2〕	5	30.0%	
	〔問 3〕	5	☆71.1%	
4	※〔問 1〕	5	52.9%	39.0%
	※〔問 2〕	5	46.5%	
	※〔問 3〕	5	16.8%	
	※〔問 4〕	5	40.0%	
5	※〔問 1〕	5	73.4%	☆49.5%
	※〔問 2〕	5	22.2%	
	※〔問 3〕	5	54.8%	
	〔問 4〕	5	☆47.5%	
6	※〔問 1〕	5	20.0%	26.9%
	※〔問 2〕	5	29.1%	
	※〔問 3〕	5	31.6%	

（注１）☆は部分正答も含めた割合
（注２）※は記号選択式の問題

1　資料から読み取った情報を基にした地形図の読図，安土・桃山時代にわび茶を完成させた人物，2022 年における国際連合の安全保障理事会の常任理事国について問う問題とした。

2　商業を題材として，都市の商業の様子及び世界の気候，一人当たりの国民総所得及び小売業などの様子，東南アジア諸国連合加盟国と我が国との結び付きについて地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる問題とした。

3　物流を題材として，我が国の自然環境と農産物の東京への出荷の様子や，空港の国内線貨物取扱量から，地域的特色について考察する能力や，資料から読み取れるモーダルシフトを推進する目的と貨物鉄道の路線の敷設状況及び貨物ターミナル駅の設置状況について適切に表現する能力をみる問題とした。

4　技術を題材として，古代から中世にかけて各時代の権力者が築いた寺院などの様子，近世において実施された様々な経済政策などが行われた時期，明治時代に操業を開始した工場の様子，昭和時代以降の技術開発に関する主な出来事の時期について考察する能力をみる問題とした。

5　企業を題材として，経済活動の自由を規定している日本国憲法の条文，公共料金の種類，企業の経済活動に対して税を課税する主体について考察する能力や，資料を活用し，改正された会社法によりもたらされた取締役会の変化について適切に表現する能力をみる問題とした。

6　万国博覧会を題材として，世界各地の主な鉄道の路線の様子，国際博覧会が開催された時期と開催国の位置，我が国における人口ピラミッドについて３分野から総合的に考察する能力をみる問題とした。

(ｲ) 主な誤答例等

1　〔問 1〕では，「ア」という誤答が多かった。これは，Ａ点→Ｂ点→Ｃ点の順に進んだ際の道の傾斜について，地形図から読み取る技能が十分ではなかったためと考えられる。

2　〔問 2〕では，「Ｘ－イ」，「Ｙ－ア」という誤答が多かった。これは，統計資料や説明文で示されている小売業などの様子と略地図とを結び付けて，国の位置を特定することができなかったためと考えられる。

3　〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，統計資料で示されている国内線貨物取扱量，輸出額及び輸入額等から空港の特徴を読み取り，東京国際空港を特定することができなかったためと考えられる。

4　〔問 3〕では，略地図中の所在地については正しく選択したものの，時期については「ア→イ→ウ」という誤答が多かった。これは，我が国の近代産業の進展についての理解が十分ではなかったためと考えられる。

5　〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，説明文が、どの公共料金の改定経過について示しているかを特定することができなかったためと考えられる。

6　〔問１〕では，「Ｂ－ウ」，「Ｂ－エ」という誤答が多かった。これは，略地図と説明文で示されている世界各地の主な鉄道の路線の様子とを結び付けて，鉄道の路線の位置を特定することができなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 地理的分野については，地形図や雨温図の読図，統計資料の読み取りなど基礎的・基本的な地理的技能を身に付けさせる指導が必要である。また，地図帳を活用し，複数の地理情報を関連付けて考察し，地域的特色を理解する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｲ) 歴史的分野については，我が国の歴史の大きな流れについて，世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させることができる指導が必要である。また，様々な資料を活用し，歴史的事象を考察する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｳ) 公民的分野については，日本国憲法の基本的な考えや，政治や経済の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて，多面的・多角的に考察し，事実を正確に捉える学習活動の一層の充実が必要である。

(ｴ) 論述問題については，社会的事象から課題を見いだし，多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付ける学習活動の一層の充実が必要である。

(5)　理科

ア　出題の方針

自然の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，科学的に探究する活動を通して思考力，判断力，表現力等をみる。

イ　各問のねらい

1　第１分野（「エネルギー」や「粒子」）と第２分野（「生命」や「地球」）の各領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみる。

2　日常生活に関わる探究的な活動を通して，複数の領域にわたる事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる。

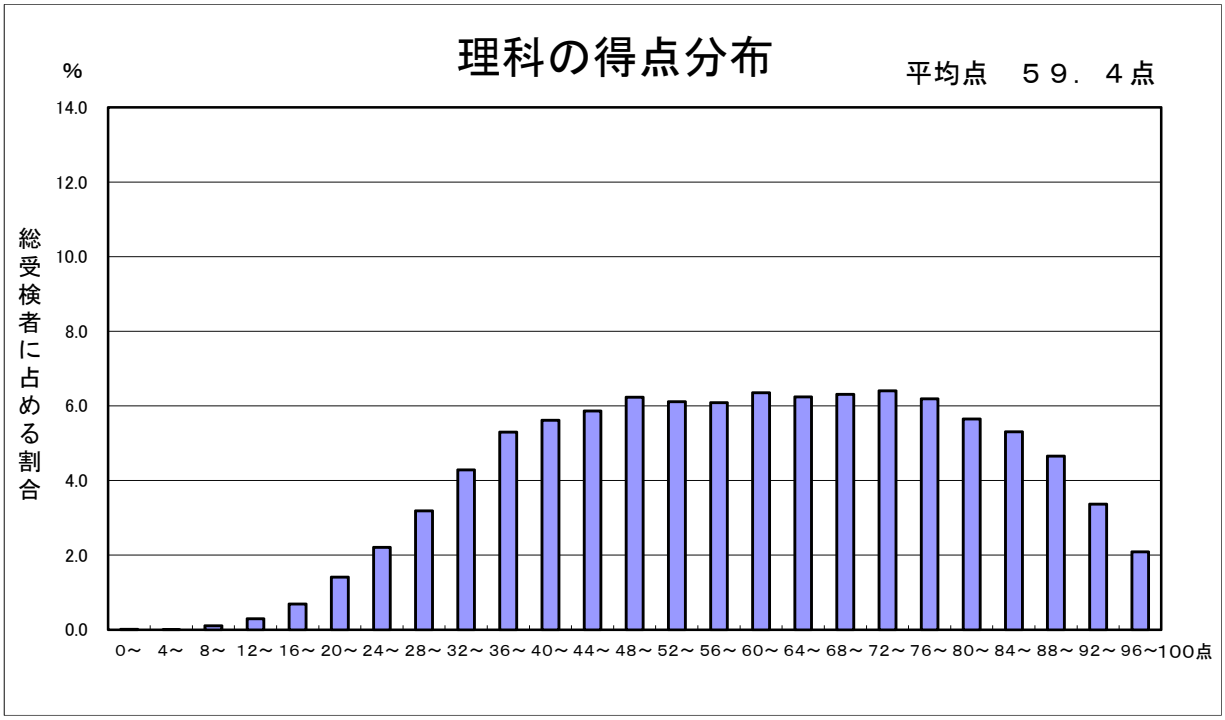
3　「地球」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力，表現力をみる。

4　「生命」を柱にする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力をみる。

5　「粒子」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力をみる。

6　「エネルギー」を柱とする領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，実験を通して科学的な思考力，判断力をみる。

ウ　得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は５９．４点となり，昨年度より２．０点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の９６点～１００点から７２～７５点に移り，８０点以上の受検者の割合は２７．７％から２１．１％に減少した。

エ　各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ｱ) 各問の内容及び正答率

1　各領域の事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題とした。

2　日常生活に関わる探究的な活動を通して，複数の領域にわたる事物・現象について，基礎的・基本的な知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

3　露点と雲の発生に関する実験を通して，気象とその変化についての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力，表現力をみる問題とした。

4　ヒトの体内の消化に関する実験を通して，生物の体のつくりと働きについての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

5　水溶液に関する実験を通して，化学変化と原子・分子についての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

6　電流の実験を通して，電流とその利用についての知識及び技能をみるとともに，科学的な思考力，判断力をみる問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問 1〕	4	92.3%	67.4%
	※〔問 2〕	4	57.6%	
	※〔問 3〕	4	63.2%	
	※〔問 4〕	4	42.2%	
	※〔問 5〕	4	65.9%	
	※〔問 6〕	4	82.9%	
2	※〔問 1〕	4	54.0%	49.3%
	※〔問 2〕	4	41.4%	
	※〔問 3〕	4	56.1%	
	※〔問 4〕	4	45.8%	
3	〔問 1〕	4	☆29.0%	44.7%
	※〔問 2〕	4	51.5%	
	※〔問 3〕	4	34.4%	
	※〔問 4〕	4	64.1%	
4	※〔問 1〕	4	71.6%	66.1%
	※〔問 2〕	4	63.3%	
	※〔問 3〕	4	63.4%	
5	※〔問 1〕	4	30.6%	43.3%
	※〔問 2〕	4	55.1%	
	※〔問 3〕	4	50.9%	
	※〔問 4〕	4	36.6%	
6	※〔問 1〕	4	53.4%	47.9%
	※〔問 2〕	4	45.7%	
	※〔問 3〕	4	23.2%	
	※〔問 4〕	4	69.3%	

（注１）☆は部分正答も含めた割合
（注２）※は記号選択式の問題

(ｲ) 主な誤答例等

1　〔問 4〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，凸レンズと物体の距離，凸レンズとスクリーンの距離，像の大きさの関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。

2　〔問 2〕の正答率が低かったのは，海水と海氷の塩分の濃度の違いを定量的に考察する力や，海水と海氷の密度の違いを考察する力が十分でなかったためと考えられる。

3　〔問 1〕では，「コップ内の水温を実験室の温度と同じにするため」や，「飽和水蒸気量を変化させるため」などの実験操作の目的を十分に理解していない誤答が多かった。これは，露点に関する実験についての知識及び技能が十分でなかったためと考えられる。

4　〔問 2〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，ヒトの小腸の柔毛で栄養分が吸収される仕組みについての理解が十分でなかったためと考えられる。

5　〔問 1〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，塩化銅が蒸留水に溶けて陽イオンと陰イオンに分かれる様子についての理解が十分でなかったためと考えられる。

6　〔問 3〕では，「エ」という誤答が多かった。これは，消費される電力と抵抗器に加わる電圧の大きさの関係性についての理解が十分でなかったためと考えられる。

オ　まとめと指導の改善の視点

(ｱ) 3〔問 1〕の正答率が低いことから，実験の目的等に関する基礎的・基本的事項の知識及び技能，表現力の定着に課題があると考えられる。探究の過程の中で引き続き基礎的・基本的事項の知識及び技能を身に付け，表現する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｲ) 5〔問 1〕の正答率が低いことから，イオンの生成に関する基礎的・基本的事項の知識及び技能の定着に課題があると考えられる。探究の過程の中で引き続き必要な情報を抽出・整理する学習活動の一層の充実が必要である。

(ｳ) 6〔問 3〕の正答率が低いことから，消費される電力と抵抗器に加わる電圧の大きさの関係性を分析し，考察することに課題があると考えられる。既習事項や観察・実験の結果，複数の事物・現象等を関連付けて考察する学習活動の一層の充実が必要である。